

一九九八年出土の木簡

概 要

本号も例年のように、昨年の研究集会で「一九九八年全国出土の木簡」として報告した事例を中心に、計七八遺跡から出土した木簡の報告を掲載することができた。発掘調査やその後の整理作業に忙しいなか、執筆していただいた諸氏、ならびに関係各機関に対し、篤くお礼申し上げる次第である。

この七八遺跡という数は、これまでで最多である。本書で扱う事例数は年々増えていく傾向にあるようである。もちろん実際の出土事例の増加もあるが、木簡の使用が広い時代・地域にわたることが明らかにするにしたいが、各地で木簡がこれまでに以上に注意されるようになったことも、要因となっているのではなからうか。本号には明治年間の木簡出土も数カ所から報告されている。

なお七八遺跡中半数の三九遺跡は、九七年以前の出土であり、「一九九八年出土の木簡」という標題とやや齟齬をきたしている。こうした状況は、出土以後の整理作業に時間がかかるためで、本誌

の宿命的なものでもあるが、情報の早期収集が不十分であることも、その一因となつているところであらう。

さて、一九九八年の木簡出土状況は、例年とはやや異なった様相を呈している。それは藤原・平城・長岡・平安京跡という主要な古代都城遺跡からの出土が全くないのである。平城京ではわずかに薬師寺旧境内から一点出土したが、平安時代のものである。

しかし本号では九七年以前に出土して未報告であつた、藤原京・平城京・長岡宮跡の木簡を載せることができた。そのうち長岡宮は東辺官衙・春宮坊跡と北辺官衙北部から出土したものである。

右のような「お馴染み」の都城遺跡の木簡の少なさを補い、かつきわめて注目されるのは、飛鳥池遺跡から九七・九八年度の調査で出土した七七〇〇点余に及ぶ大量の木簡である。同遺跡は南北二つの地区に分かれ、南半部では金属や玉・ガラスの工房跡が検出され、また富本銭の鑄造が知られるなど、浄御原宮・藤原宮の時期に営まれた総合的な宮廷所属の工房遺跡であつた。一方北半部はその北に位置する飛鳥寺、それも道昭が住んだという東南禅院との関連が指摘されている。木簡は特に北半部から多く出土している。

1998年出土の木簡

遺 跡 名	所 在 地	点 数	木簡の年代	遺跡の性格
○平城京跡右京七条一坊十五坪	奈良県奈良市	2	古 代	都 城
※○秋篠・山陵遺跡	奈良県奈良市	1	古 代	集 落
薬師寺旧境内	奈良県奈良市	1	古 代	寺 院
藤原京跡右京六条四坊北西坪	奈良県橿原市	1	古 代	都 城
※○大藤原京跡左京北五条三坊南西坪	奈良県橿原市	2	古 代	都 城
○飛鳥池遺跡	奈良県明日香村	7758	古 代	生産遺跡・寺 院
※ 飛鳥池東方遺跡	奈良県明日香村	1	古 代	流 路
※ 飛鳥東垣内遺跡	奈良県明日香村	3	古 代	溝
※ 川原寺跡	奈良県明日香村	3	古 代	道 路
※ 吉備池廃寺	奈良県桜井市	1	古 代	寺 院
長岡宮跡	京都府向日市			
○ 東辺官衙・春宮坊跡		668	古 代	官衙・都城
○ 北辺官衙（北部）		2	古 代	官 衙
○平安京跡左京三条三坊十五町	京都府京都市	22	近 世	都 市
○平安京跡左京七条二坊八町及び本園寺	京都府京都市	約100	近 世	寺 院
鳥羽遺跡・鳥羽離宮跡	京都府京都市	1	中 世	離 宮
※ 大藪遺跡	京都府京都市	1	近 世	居 館
※ 興戸宮ノ前遺跡	京都府京田辺市	2	中 世	集 落
※○武者ヶ谷遺跡	京都府福知山市	1	中 世	祭 祀 遺 構
※○河守遺跡	京都府大江町	1	古 代	条里制遺構
○難波宮跡	大阪府大阪市	3	古 代	都 城
○大坂城下町跡	大阪府大阪市	2	近 世	城 下 町
※○長保寺遺跡	大阪府寝屋川市	1	中 世	集 落
※○溝咋遺跡	大阪府茨木市	1	中 世	集 落
※○玉櫛遺跡	大阪府茨木市	3	古代・中世	集落・水田
※○釣坂遺跡	兵庫県朝来町	3	古 代	集落・河道
加都遺跡	兵庫県和田山町	3	古 代	水 田
※ 豊岡城館遺跡	兵庫県豊岡市	1	近 世	城 館
※ 岩井枯木遺跡	兵庫県豊岡市	1	古代～中世	集 落
※ 宮内黒田遺跡	兵庫県出石町	3	古 代	遺物散布地
※ 姫路駅周辺第四地点遺跡（仮称）	兵庫県姫路市	1	近 代	区 画 溝
※ 古網干遺跡	兵庫県姫路市	125	古代・中世	集 落
※○六大A遺跡	三重県津市	2	古代・中世	集落・河道
※○橿田地区内遺跡群奥ノ垣内地区	三重県松阪市	1	近 世	集 落
※○内垣外遺跡	三重県多気町	1	中世か近世	集 落
※ 宇津宮辻子幕府跡	神奈川県鎌倉市	1	中 世	官 衙
○汐留遺跡	東京都港区	約800	近世・近代	城下町・都市
○江戸城外堀跡（四谷御門外橋詰・御堀端通・町屋跡）	東京都新宿区	4	近 世	城 下 町

1998年出土の木簡

※○法光寺跡	東京都新宿区	43+ α	近	世	寺	院
※○白鷗遺跡	東京都台東区	5+ α	近	世	城	下町
※○池之端七軒町遺跡	東京都台東区	20+ α	近	世	寺	院
※○浅草寺遺跡	東京都台東区	5	近	世	寺	院
※○上千葉遺跡	東京都葛飾区	1	近	世	集	落
○宮町遺跡	滋賀県信楽町	1993	古	代	都	城
○小谷城跡（伝知善院跡）	滋賀県湖北町	116	中	世	城	郭
※○尾上浜遺跡	滋賀県湖北町	1	不	明	包	含
○屋代遺跡群（北陸新幹線関係）	長野県更埴市	1	古	代	集	落
※○榎田遺跡	長野県長野市	2	古代・不明		集落・流路	
一本柳遺跡	宮城県小牛田町	1	中	世	集落・屋敷	
(○)市川橋遺跡	宮城県多賀城市	7	古	代	集	落
柳之御所遺跡	岩手県平泉町	1	古	代	居	館
志羅山遺跡	岩手県平泉町	6	古	代	屋	敷
○後田（旧月記）遺跡	山形県鶴岡市	3	中世・近世		流	路
※ 洲崎遺跡	秋田県井川町	17	中	世	集	落
福井城跡(1)	福井県福井市	6	近世・近代		城郭・都市	
(○)福井城跡(2)	福井県福井市	12	近	世	城	郭
※○神野遺跡	石川県金沢市	1	古	代	集	落
(○)堅田B遺跡	石川県金沢市	6	中	世	居	館
※○広坂遺跡	石川県金沢市	8	近	世	城	下町
※○中保B遺跡	富山県高岡市	1	古	代	官	衙
※ 東木津遺跡	富山県高岡市	10	古代・中世		集落・官衙	
※ 栃谷南遺跡	富山県富山市	1	近	世	集	落
※○榎井A遺跡	新潟県頸城村	1	古	代	集落・荘園	
下ノ西遺跡	新潟県和島村	4	古	代	官	衙
※○沓本杉遺跡	新潟県笹神村	1	中	世	集	落
※ 砂山中道下遺跡	新潟県加治川村	8	中	世	集	落
下町・坊城遺跡C地点	新潟県中条町	1	中	世	荘園・流路	
※ 船戸川崎遺跡	新潟県中条町	6	古	代	集落・官衙	
三田谷I遺跡	鳥根県出雲市	2	古	代	集落・官衙	
※ 熊山田散布地	岡山県邑久町	1	中	世	集	落
○岡山城二の丸（中国電力変電所）遺構	岡山県岡山市	3	近	世	城	下町
※ 新道（清輝小）遺跡	岡山県岡山市	3	中	世	集	落
※ 米田遺跡	岡山県岡山市	1	中	世	河	道
百間川米田遺跡	岡山県岡山市	3	中	世	河	道
※ 四日市遺跡	広島県東広島市	1	中	世	集	落
※ 下上戸遺跡	広島県東広島市	2	中	世	集	落
○長登銅山跡	山口県美東町	236	古	代	官	衙
観音寺遺跡	徳島県徳島市	12	古	代	官	衙
※○平田七反地遺跡	愛媛県松山市	2	中	世	集	落
※ 元岡遺跡群	福岡県福岡市	3	古	代	集	落

※は木簡新出土遺跡

○は1997年以前出土遺跡

(○)は1997年以前出土もある遺跡

そして「天皇」の語が記され、その成立時期の論議に一石を投じた木簡がある他、「飛鳥寺」「禪院」や道昭の弟子の「智調師」の名が見え、また多くの寺院名や漢詩を書いた木簡などがあり、内容が豊富である。さらに「丁丑年」（天武天皇六年）に「三野国」から「次米」を貢上した二点の荷札は、『日本書紀』に天武天皇六年十一月に行われたと伝える「新嘗」との関連が想定されており、国家的祭祀の成立過程の問題とも絡んで、今後の論議が期待される。

また難波宮跡からは、前期難波宮の時期に属する木簡が三点出土した。一点は「謹啓」で始まる文書木簡の冒頭部の断片であり、「謹啓」木簡では最古の例になる。またもう一点は人形に書かれたものだが、それは木簡を人形に転用したものである。「奴」に関する文書木簡で興味深い。紫香樂宮跡である滋賀県宮町遺跡からは、大半は削屑だが、二〇〇〇点近い大量の木簡が出土した。

それ以外の古代木簡に目を移すと、まず平城京の北の京外に位置する秋篠・山陵遺跡出土の木簡は、米の下給・収納を記録しており、「寺」「司」の墨書土器と合わせ、秋篠寺との関係を想定できる可能性がある。兵庫県加都遺跡出土の大型木簡は、田地の開発に関わり、同県宮内黒田遺跡の木簡は土地の貸借に関わるとみられる。

長野県榎田遺跡の木簡は、二ヵ月以上にわたり日々の稲の収納量を書き次いだとみられる。宮城県市川橋遺跡からは「杜家立成」の習書木簡が出土した。同書は、正倉院に光明皇后筆のものが現存す

るのみだが、それとは文字が異なる部分のある習書木簡が出土したことは、同書の伝来や普及過程を考える上で大きい意味を持つ。

石川県神野遺跡出土木簡は、出挙の記録かとみられる束数を記す新潟県榎井A遺跡の井戸の矢板に転用された木簡には、「御田」での「阿桜夫」の大規模な動員を示す文書が記され、名称は不明だが、荘園に関わるものとみられる。同県船戸川崎遺跡からは数人の人名と数字を書き、合点を付けた記録木簡が出土した。

島根県三田谷I遺跡からは本誌第一七号報告のものと同じく、出雲国神門郡内の郷名の下に人名を書いた木簡が二点出土し、同遺跡が郡家に関連する可能性が高まった。古代銅生産官衙遺跡として、これまでも多くの木簡が出土している山口県長登銅山跡からは、二三〇点の出土が報じられている。これまでも例がある「少目殿」や「大殿」の語が見える。本誌第一九号でも事例報告をした徳島県観音寺遺跡からは、新たに一二点の木簡が出土した。「板野国守大夫」の記載があり、初期国府・国司のあり方に論議を呼ぶものである。福岡県・元岡遺跡群から出土した木簡には「壬辰年韓鐵」と記されていた。「壬辰年」は持統天皇六年にあたるとみられ、「韓鐵」は「韓鐵師」「韓鍛冶」に関わるのであろう。

次の中・近世の木簡に移る。まず中世木簡では、例年のように宗教関係のものが目に付く。主なものをあげると、柿経が京都府鳥羽遺跡・鳥羽離宮跡、滋賀県小谷城跡から、卒塔婆が平安京跡左京七

条二坊八町及び本園寺、大阪府長保寺遺跡・溝咋遺跡・玉櫛遺跡、兵庫県古網干遺跡（古代末～中世）、滋賀県小谷城跡、石川県堅田B遺跡、新潟県下町・坊城遺跡、岡山県米田遺跡・百間川米田遺跡・熊山田散布地、広島県下上戸遺跡などから、呪符が兵庫県岩井枯木遺跡（古代～中世）・古網干遺跡、新潟県下町・坊城遺跡、蘇民将来札が三重県六A遺跡・内垣外遺跡（中世か近世）、新潟県巻本杉遺跡などから出土している。秋田県洲崎遺跡出土の木簡には、僧侶と人魚の絵と文字が書かれ、人魚の除災供養に用いたとみられている。また富山県中保B遺跡では、時期が明確ではないが、おそらく中世の「神宮」「御師」などと記された木簡が見つかった。

また近世の宗教関係木簡としては、京都府大藪遺跡から位牌、三重県橿田地区内遺跡群から呪符、東京都法光寺跡・池之端七軒町遺跡からは墓地関係の木簡が出土している。

それ以外の中世木簡として、神奈川県宇津宮辻子幕府跡では、鎌倉幕府の御家人に溝の普請を割り当てた際の、工事区間を示す木簡が出土している。同種の木簡は、これまで若宮大路両側溝からの出土例がある。また岡山県新道遺跡からは、「御庄」の記載がある木簡が出土しているが、殿下渡領の鹿田庄の荘家の所在地とみられる。

近世の京都府平安京跡左京三条三坊十五町と左京七条二坊八町及び本園寺、東京都汐留遺跡・江戸城外堀跡・白鷗遺跡あるいは福井県福井城跡(2)、岡山県岡山城二の丸遺構などからは、近世都市・城

下町の生活の様相を物語る木簡が多く出土している。

なお、種々の事情により、本号に掲載すべくしてできなかった遺跡がある。兵庫県兵庫津遺跡・三重県桑名城下町遺跡・長野県綿内遺跡群南條遺跡・群馬県前六供遺跡・秋田県十二牲遺跡・富山県八塚C遺跡・新潟県野中土手付遺跡・広島県郡山遺跡・鹿児島県浜町遺跡である。また奈良県西橋遺跡・太田遺跡、京都府平安京跡左京九条二坊十五町・御土居跡、兵庫県赤穂城本丸跡・時友遺跡・姫路城跡・宮内堀脇遺跡（一九九六年度調査）、滋賀県大將軍遺跡（草津市教育委員会調査分）、静岡県水守I遺跡・元島遺跡、神奈川県佐助ヶ谷遺跡、東京都汐留遺跡（汐留遺跡調査会調査分）・江戸城和田倉遺跡、岩手県仙人西遺跡、福井県福井城跡国際交流会館地点、石川県金石本町遺跡（第三次調査）・木ノ新保遺跡・四柳白山下遺跡、新潟県新堀村下遺跡・牧目館遺跡・平林城跡・春日山城跡・伝至徳寺跡、広島県尾道遺跡については今号も掲載できなかった。

一度機会を逃すとなかなか掲載が困難な場合が多い。しかし木簡出土事例を全て載せることを使命としている本誌としては、これらの掲載を今後も追求していきたい。改めて関係各機関・担当者の方々のいつそのご協力をお願いする次第である。

以前に比べ本誌で扱う「木簡」の時代や範疇は大きく広がり、それにつれてずいぶん大部な本になっている。今後本誌のあり方自体、議論していくことも必要となってくるであろう。（館野和己）